

災害時の支援方法を考える

検討に向けて	災害時には、多種多様な人が支援を必要としています。どのような人がどのような支援を必要とし、自主防災組織や地域としてどのように支援していくことがよいか、その方法を考えてみましょう。
お問い合わせ	要支援者に関する勉強会：あいサポート運動 (広島県障害者支援課 電話：082-513-3157) 支援方法のアドバイス：広島県自主防災アドバイザー制度 (広島県消防保安課 電話：082-513-2790)

STEP 1 支援が必要な人を想定する

自分たちの地域に“どのような人が住み、どの年代が多いか”など、地域住民の特徴を把握し、災害が起きたら“どのような人に支援が必要となるか”地域で話し合います。

■支援が必要な人とは・・・？

- 高齢者 ●乳幼児 ●妊産婦 ●外国人 ●旅行者
- 障害者（聴覚・視覚・知能・精神・肢体障害）

など

STEP 2 支援について学ぶ

支援方法を考えるには、支援を必要とする人の状態や配慮の仕方など、相手を知ることが大切です。まずは専門家やアドバイザーなどを呼び、勉強会を行いましょう。

STEP 3 支援方法を考える

勉強会を基に、自主防災組織として“どのような支援を行うことができるか”適切な支援方法を考えます。また、福祉避難所や医療機関など、障害者を引き受けることのできる施設がある場合、施設の管理者とも話し合いを行い、災害時の支援体制を考えておきましょう。



活動メモ

- ①「住民台帳」などを作成し、地域にどのような人が住んでいるかを把握しましょう。
- ②支援が必要な被災者を積極的にサポートできるよう、日頃から勉強しておきましょう。
- ③災害時には、障害者をいつもサポートしている人が一緒にいるとは限りません。どのような状況でも適切な支援ができるよう、障害の程度や障害の内容などを地域で把握しておくことが大切です。
- ④支援活動をスムーズにするためには、支援者だけでなく、支援される側も「支援が必要である」ことを理解しておく必要があります。
- ⑤地域で決めた支援方法を防災訓練などで実践してみることも大切です。課題点や改善点を抽出し、よりよい支援を目指しましょう。

考え方のポイント

- 支援にあたっては、専門的な知識を必要とする場合があります。勉強会を行うだけでなく、地域の自治体や福祉団体などと協力できるようにしておきましょう。
- 支援の方法に正解はありません。話し合いを重ね、支援する人・される人の両方に無理のない方法を考えましょう。